

やすらぎ



「歎異抄」(第五十三回)

榎 暁 講述

「歎異抄」 後序 続き
まことに如来の御恩ということばさたなくして、われもひとも、よしあしということをももうしあえり。

(真宗聖典六四十頁)

如来のお恵みを問題としない
で、人のことを良し悪しということ。そういう現実において唯円大徳は、「善悪のふたつ総じてもって存知せざるなり」と親鸞聖人の仰ったことを思い出して云われる。

『歎異抄』は、善悪の問題を中心にしていることは先輩が教えて下さる。善悪を立てなければ、生

活出来ないのが我々であります。

しかしながら、徹底して善悪を知っているわけではない。自分の都合の良いことを善、都合の悪いことを悪という。つまり、煩惱のなせるわざとして善悪を云っている。親鸞聖人は、何が真の善か、真の悪かということは、我々にはわからないのである。仏の智慧のうえで善を知りとおされたように、我々が善を知り、悪を知ったならば、善悪を知っていることになるけれども、我々煩惱生活をしているものが、火宅無常の世界にありながら、筋を立ててものを云っているようだけれども、最後は力で動かす。いわゆる世間的に力を持った者が、勝ったようになるが、やがてその力も衰えてくる。

光照寺寺報

発行所
真宗大谷派 弘興山
宗教法人光照寺
〒331-0821
さいたま市北区別所町102-2
電話：048-651-2781代
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://koshoji76.jp
発行人 池田孝郎

平家物語がよくあらわれている。支配の関係で強い者が勝つようだけれども、やがて強い者も滅びていく。罪をつくって人間は滅びていく。

「われもひと」とは、唯円大徳が他人のことを批評しているということではなく、自分をはじめとして、我々、親鸞聖人の教えを聞かせて頂いた弟子達がということ。唯円大徳の個人の懺悔にとどまらない。教団の問題として、共通の問題として云っている。

「如来の御恩」とは、究極の依り処をはつきりとさせて頂けるようになったということが如来のお恵み。如来のお恵みを感じていかなければならないのに、我々は善悪だけを云っている。ここに我々

の悲しむべき姿がある。

(当寺)法話抜粋要約、文責副住職
釈徹照 次回へ続く



子供会



春彼岸法要の様子

孟蘭盆会法要

八月十一日(土)午前・午後 厳修

詳細は3頁

詳細は3頁



無碍光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

五月に入り、新緑が美しく、花が咲き、風薫る良き季節となりました。しかし、今年は四月に入って真夏日が気象庁観測以来最も多い月となったと報じています。今年に入って大雪は四年振りであったことを思いつつ、予報では今夏は猛暑が続くとのこと。気候変動を肌で実感する今日この頃であります。

その様なことを感じつつ、花が咲く、「咲」の字を「笑」と表現することに疑問を感じておりました。それは親鸞聖人が観無量寿経の「即便微笑」を「釈迦微笑」

と表現されておられ、調べてみると、なんと、「咲」を「わらう」と読んでいたものを、漢詩の「鳥鳴花咲」の「咲」を「咲く」と読み慣わしたことから生じて読むようになったとのことでした。

そこで今回は、「咲」と「笑」を同義として、仏様の「微笑」の神秘的「笑」に迫ってみたいと思いました。

人間の笑、笑うことの出来る動物とされる所以の奥にはいろいろ複雑な笑いの表現があります。善くも悪くもです。最近は大も笑うとか猫も、馬も笑うとか、いろいろの動物も笑うと画像で示されると、笑うのは人間だけではなかったのかと思うほどです。それも人間側の一瞬の笑いの表情としての投影でありましょう。しかし、すべての動物も笑う知性を持っているとする視点の人間感性も素晴らしい感性だと思います。ましては植物も笑うとする感性が古来よりあったとすると、日本人のデリケートな感性の機微こそ奥深く深遠な命脈でありましょう。侘寂、幽玄の感応へ至る感性でありましょう。

俳句にも、「山笑う」の季語もあります。植物の萌え咲く情景には山も川も空も風も光も雲もすべて含まれて詠まれているのです。よう。「咲」を「笑」と擬人化する投影表現こそ自然と一体化して生活してきた日本人の原風景が投影されていると思います。

私は今こそこの現代に失ってはならない日本人の感性と思うのです。そのルーツは、幾多の苦難をも越えて、花咲く春を待ち望む、四季に恵まれ醸成され続けてきた日本人の感性と思うのです。

親鸞聖人が「釈迦微笑」と表現される深遠さを憶うのです。それはお釈迦様の「微笑」に、たった一人の韋提希夫人に微笑されたのではなく、天も十方の諸仏も、一切衆生も救われる機縁と洞察された微笑でありましょう。微笑と表現される言葉には神秘的性が宿るものと思われれます。たとえば、「モノナリザの微笑」とか、法隆寺の「救世観音の微笑」も神秘的微笑といわれます。そこには言葉で表現出来ない深遠な慈愛・慈悲を見る者に感じせしめる力があるのです。又、仏典には「拈華微笑」もあります。大勢の仏弟子の中でお釈迦様と摩訶迦葉一人がその意が通じるとする「感応道交」です。

真の依り処

お寺は何のためにあるのですか？お葬式はだれのために何のためにするのですか？南無阿彌陀佛というお念佛は私達が生きる中で関係で傷つけ合うことをどのようによ越えられるかという事を問いにできたのが仏教だと思えます。私達にとつて亡き人やご先祖が成佛するとはいったいどの様な事でしょうか。お互いに傷つけ合う迷いの世界を生きる為に私にとって亡き人の存在が真理に目覚める者になつてほしいと願われているのですが、煩惱まみれのこの私を如何に生きると問いかければえは人生の方向を決定することであると聞きしました。その智慧を聞かせて頂ける場です。師の標先生が無常が真実と解いて下さいました。

岡田ノリ子

鈴の音

念仏を本当に人間の救いにする一点、それは信心にある

仲野良俊
(『浄土真宗 往生と不退』より)

盂蘭盆会法要

- ・8月11日(土)
第一部(午前) 9時30分受付
午前 10時～11時30分まで
第二部(午後) 1時受付
午後 1時30分～3時30分まで
- ・光照寺本堂にて
- ・勤行・法話

※準備の都合上、出席人数と午前か午後の参詣をご連絡下さい。預骨、初盆の方は率先してお参り下さい。また、どなたでもお参りできます。真宗のお盆に触れて下さい。ご参詣をお待ちしています。

お盆参り

- ・7月13日から16日の期間
- ・8月1日から16日の期間
(11日は除く)

※ご希望の日にちをお知らせ下さい。時間につきましては、こちらで調整して連絡させていただきます。ご自宅か当寺のいずれかで読経いたします。



人が亡くなると小さい子供はどこかで教えられたか、絵本で学んだか、お星様になったと云う。星になって夜空で照らしておられる、見守ってくれている、という想像において、何か安心感を得るかのように微笑んでいます。悲しみの感情が浄化されているようにも思えますし、逆に、悲しみというものがどういふものなのか理解できていないとも見ていると感じます。いずれにしても、尊い感じを受けますし、純粋にかえることができます。しかしいつしか、人は死していく、そしてその死から目を背くことを覚え、純粋性を失って

理知分別で死を理解することに違和感もなく、生だけがすべてであって、健康で長生き、寝たきりではなく、ある程度の看護を得て畳で死を迎えれば最高だと、生と死を自分の思いの範疇で捉えるようになってしまいます。そういうことは理想ではありませんが、思い通りにならない「生と死」、「いのち」は計れないというこの大前提が欠落してしまいます。思い通りにならない「いのち」だからこそ、この一瞬に精一杯生きるといふ価値転換が求められてきます。星になるといふ想像性が薄れても、「浄土」、「仏」といふ高邁な想像性を現実にも傾かされて頂きます。亡き人を偲び、ご一緒にお念仏申しましょう。

お盆法要は二部制にて厳修致します。多数のご参詣をお待ちしております。
(副住職 釈 徹照)

子供会報告

子供会「ポニークラブ」報告
花まつり&遠足(工場見学)

坊守 池田 邦子

連日晴日数、十一日目の今日、四月四日(水)初夏を思わされる絶好の日を迎えました。陽子さん恵美さん唯奈の縁で、小さなお友達も参加して下さいました。勤行に始まり、自己紹介をして、上尾の平方スポーツ広場に隣接した「井上スパイス工業」へ移動、工場のスパイス探検隊の上村洋美さんがカレーの製造過程を楽しく説明して下さい、こちらの製品は学校給食にも出されている安全食品だそうです。昼食はスパイスのきいた自慢の

カレーを満喫しました。寺に戻りお釈迦様に甘茶をかけ誕生のお祝いをしました。替歌や絵本の読み聞かせありと、子供達も疲れた様子もなく走り回っていました。次回八月二十四日(金)予定しています。皆様の御参加をお待ちします。



甘茶かけ



井上スパイス工場にて



本堂にて

ひとくち 抄異

羅漢：「自然のことわりとは何にか。」

「わがはからわざるを、自然ともうすなり。」第16章



「自然とは自ずからしからむはたらきであり、願力をおおぎまひらせ、わがはからわざるを道理とするものです。」

川越喜多院の五百羅漢

お知らせ

— 寺務所より —

◆法要のご案内

●孟蘭盆会法要 八月十一日(土)、午前・午後二部厳修。

●秋季彼岸会法要 九月二十三日(日)午後一時三十分より厳修。

●報恩講 十一月十八日(日)講師は廣瀬惺先生(元同朋大学教授、妙輪寺住職)、午前十一時より厳修。

◆光照寺護持会総会

六月二十三日(土)午前十時より開催。講師は佐々木玄吾先生(いずみ会館館主)。アトラクションもあります。

◆光照寺旅行

十月十九日(金)～二十(土)一泊旅行、長野県善光寺、戸隠・新潟県上越方面を旅行します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会
講師は延塚知道先生(大谷大学特別任用教授) 七月三日、九月十八日、十一月二十六日、午後一時半～四時半。『教行信証』を学んでいます。

●大経の会

七月二十一日、九月十六日、十月十四日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別。

細川巖著『正信偈讃仰』(六)を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

六月二十八日、七月二十六日、九月二十七日、十月二十五日、午後二時～四時まで。講師は住職。「真宗の簡要」(住職著)、サブテキスト「無量寿経に聞く」(松原祐善著)。「無量寿経に聞く」(下巻)(延塚知道著)を学んでいます。

●微風学舎

六月十八日、七月十七日、九月十日、十月九日。午後七時～九時まで。講師は副住職。「顕浄土」の教学―親鸞における現生不退の視座―サブテキスト「今日のことば」「真宗の生活」を学んでいます。

●さいたま親鸞講座

午後二時～四時まで。会場は大宮川鍋ビル。八月十八日、十二月八日、講師は四衢亮氏。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご用意下さい。宜しく願います。
住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。

俳句・川柳



吉澤 光昭

鳴く雲雀射られし如く下りにけり
若鮎や雨形鋭く川藻食む
縁糸つーと抜きたる浴衣かな

親ころ

江部 良吉

梅大樹花すくなきを自若とす
人形師眉筆を措く涅槃西風
西行の道を尋ねて花神去る
秩父嶺の陽に高々と梅を干す
水張って父ははがねの畦を塗り
天人五衰口開けて聞く目借時
子遍路の掌に小石を拾う親ころ

山田 恒

生き様が見えたあなたの多色刷り
残照の中に性善説が見え

短歌(詩)



佐々木 玄吾

年寄りはこちらばぬ先の杖という
杖たずさえてクラス会出る
七十を越えて集まる二十一名
眼を輝かせ「先生」と言う

佐々木 文子

動物園一歳児から米寿まで
楽しく歩く葉桜の道
連休に畑いっぱい苗植えて
子らと実を挽ぐ夏が待たるる

赤秀 品枝

悔やんでも悔やみきれない夫の死を
涙ながらに友は語りぬ
五月晴れ将棋の指南に
爺ははりきり



安曇野の初夏
山田 邦興 画

梵鐘

A家の讃嘆会

A家には娘と息子の二人の子どもがいる。二人は結婚してそれぞれ子どもが二人ずついる。A家には一っだけ約束がある。「讃嘆会には全員が実家に集まること」二人の子どもはそれを実行している。だからA家の讃嘆会は賑やかである。私は毎年そこで話をしていく。今年は「同行善知識にはよく近くべし」であった。「真の友は同行善知識である。同行善知識の役割は勸・証・護・讃である」と話したら、息子曰く「そのような友はいない。それは母親ぐらいなものだ」と。私は言った。「私もそうである」と。

佐々木玄吾